

訓練急増

東京・横田基地

落下事故 1カ月で3回も

住民を標的に訓練。米国でできない訓練は、日本・東京でも許されない。

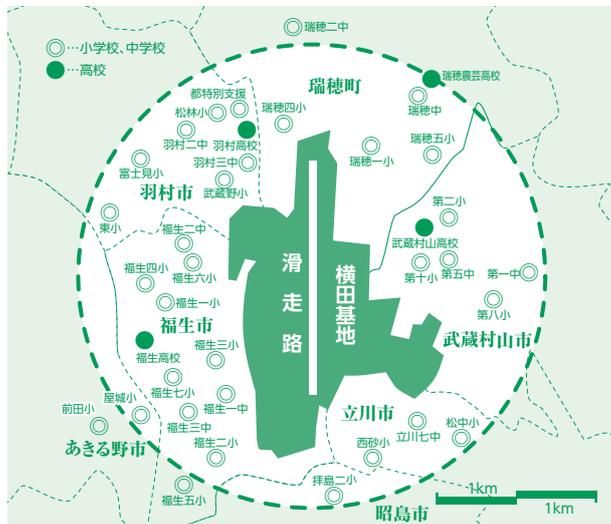


CV-22オスプレイによる初めての人員降下訓練が2020年6月29日から行われ、7月7日に訓練中にフィン(足ひれ)を街中に落とす事故を起こしました。フィンは、基地からは500m以上離れたJR青梅線・牛浜駅近くの市民駐輪場で発見。福生市議会は全会一致で抗議決議を上げています。

東京・横田基地のオスプレイ

基地周辺には学校37校

5市1町51万人の密集地で訓練
パラシュート降下は沖縄以上の規模・回数

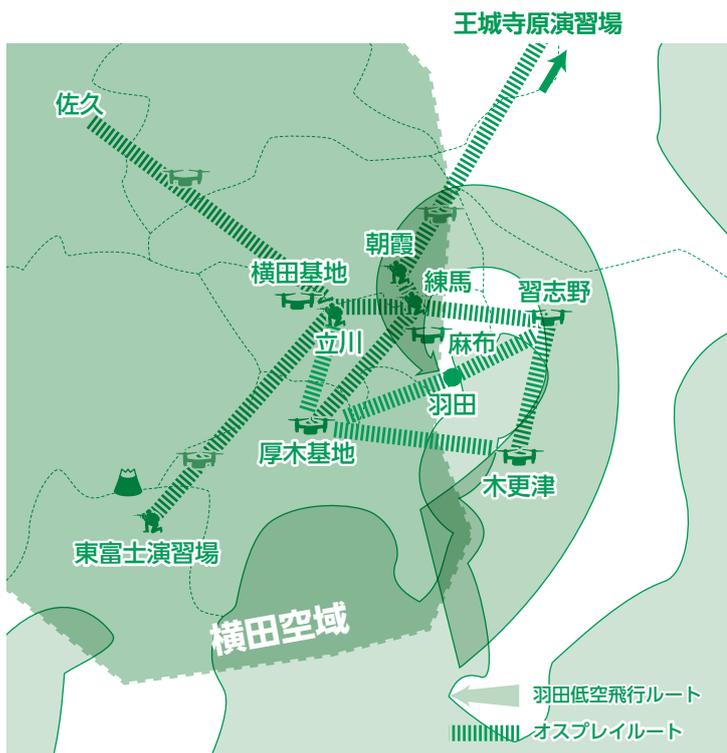


人口密集地で訓練を繰り返す米軍。横田基地ではさらに無人偵察機グローバルホーク配備や新たな司令所・航空宇宙戦略センター設置の準備が進められています。すでに事故や被害は深刻。「基地もオスプレイもなくせ」が住民の強い願いです。

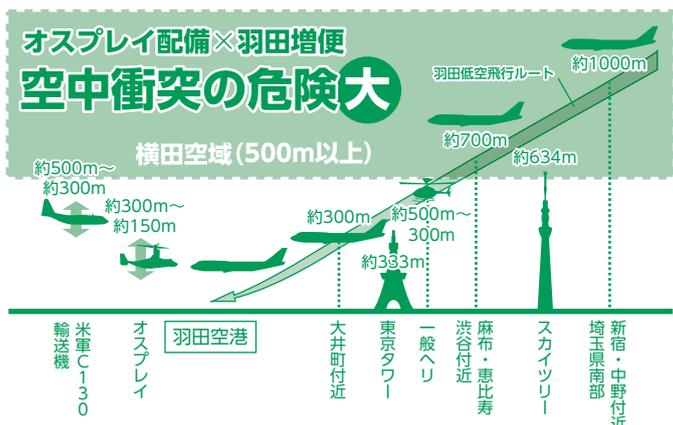
オスプレイ配備×羽田増便

衝突・落下事故の危険

増



東京23区を含む首都圏上空にある米軍最優先の「横田空域」。オスプレイをはじめ米軍機は勝手に飛んでいます。日本の航空機はここを米軍の許可なしに飛べないため、東京上空は超過密。羽田空港の増便により、ますます騒音は増え、落下事故や空中衝突の危険が高まります。問題の解決には、まず「横田空域」をなくすことが必要です。自由で安全な東京・首都圏の空を取り戻しましょう。



※米軍は訓練中、「横田空域」より低空も使っています。